

ダンス英語の表記、意味、由来などについての一考察（新・第1回）

愛知県プロ・ダンス・インストラクター協会の会員の皆様、烈暑の日々が続きますが、お元気でいらっしゃいますか？ まいど、久しぶりの燕のジョーでございます。皆様がこの稿を読んで下さる頃は、9月初旬で少しは烈暑が和らいでいる事と思います。さて、このエッセイの集大成の、『ダンス関連英単語辞典および愛知県プロ・ダンス・インストラクター協会の歴史』が、平成28年（2016年）に発売された折には、かなり莫大な数字の売り上げを記録し、ご購入下さった皆様、またお手にとって読んで下さった皆様、深く、深く感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、数年経ちました今、また新たにこのエッセイをお楽しみくださいませ。復習も兼ね、また新単語も増やしていく所存です。



① ステーションナリー **stationary** [steɪʃənəri] **ステ**イシャナリイ

この単語もあまり日本語にはなっていない、普段の日常生活では使われない英単語です。今夏の7月24日（水）に発表になった、私達財団の新ゴールド級スタンダードのワルツやタンゴに於いても、セიმ・フット・ランジの直後に、“ステーションナリー・ピボット”を頻用していますので、プロの先生が、意味をきちんと理解して、生徒さんにも簡単に説明できるようにとの願いで、ここに採り上げました。また、サンバでは、“ステーションナリー・サンバ・ウォーク”が基本ステップにあって有名ですね。ステーションナリーは『動かない、静止した、同じ場所での』という意味の形容詞です。と言っても、ここでちょっと精密に言うと、ではステーションナリー・ピボットというとはて？『静止したピボット？』と思えそうですが、静止しているなら動かないので、ダンスになりません。ここでは、“移動が無い”という意味で動かないという風に解釈して、『その場での、移動はないピボット』という事になりますので、回転軸を固定して、その軸に対して、ふたりがほぼその場で回転するピボットの事をいいます。もちろん、ステーションナリー・ピボットはバリエーションなので、テクニク・ブックには掲載されておられません。なので、上記の意味からいえば、精密に言うと、後述の②の“パートナー”もそうですが、多少ダンス用語として、拡大解釈したり、ダンスに都合の良い様にほんのちょっぴり意味変更した様な感じが無いでもありません。別の例を挙げますと、私達が良く用いる、“オーバースウェイ”などの“スウェイ”というダンス用語は、『ナチュラル・ターンの2歩目、男性のスウェイは右』と言ったりして、もちろん『傾き』という事ですが、本来のこのスウェイ(**sway**)という単語に、傾きという意味はないのです！！スウェイという単語は、『揺れる』という、動的な意味が大元で、ここからややダンス的に使えるように、ちょっと意味を捻じ曲げて、どちらかと言えば“ダンス技術の専門用語”にしてしまっている感じがします。確かにワルツやスローフォックストロットを踊れば、左右に傾く事を繰り返して踊るから、ずーっと眺めていれば、カップルは、“左右に揺れながら動いている”と言えるので、そういう事から、スウェイが、ダンスに於いては、傾くという意味に特化して用いられているのでしょう。話しが“スウェイ”の方に偏向してしまいましたが、ステーションナリーは、『その場での』という意味ですから、サンバの場合も、皆様ご存じのように、何回繰り返しても移動しない、同じ場所で踊るサンバ・ウォークの事をいう訳です。ちなみに余談ですが、私達のステーションナリーの綴りは、**stationary** なのですが、同音異義異スペル語？とでも呼ぶべき単語に **stationery** があります。(8番目の文字が **a** ではなくて **e** に変わる)これは全く異なる意味(だから、異義語)で『文房具』という意味で、ロンドンなどではデパートの売り場セクションの看板に書いてあります。日本でも見かけますね。私達の **stationary** は、**station** (駅)に **ary** の接尾辞がくっついた物なので、要するに『駅の』という意味で、なので、『動かない、そ

ここにどっしり構えている駅の様な』という事で、『動かない、静止した』という意味になるのでしょうか。

② パートナーリング (またはパートナリング)

partnering [pɑːtnərɪŋ] **パ**ートナリング (「グ」は鼻に抜ける一種の鼻母音^{びぼいん})

英語では、例えば **study** と書けば、これはある時は名詞で『勉強』、またある時は、動詞として『勉強する』という意味になります。同様な単語はたくさんあり、**dance**(ダンス⇒名詞で「ダンス」、動詞で「ダンスする、踊る」)、**practice** (プラクティス⇒名詞で「練習」、動詞で「練習する」)、**record** (レコード⇒名詞で「記録」、動詞で「記録する、録音する」)などは動詞形と名詞形が同一です。もちろん、例えば **assess** (アセス＝「査定する」) ⇒

assessment (アセスメント＝「査定」)、**hesitate** (ヘジ

テイト＝「躊躇^{ちゅうちょ}する」) ⇒ **hesitation** (ヘジテーション＝「躊躇、ステップしても体重を乗せない足型」)

resolve (レゾルヴ＝「解決する、決心する」) ⇒

resolution (レゾリューション＝「解決、決心、アルゼンチンタンゴのサリダの第5～8歩の事」) の様に動詞形と名詞形が異なる物も多いです。

さて、表題のパートナーリングは形からわかる様に、パートナーという語の **ing** 形ですので、結局パートナーという単語を“動詞”として認識した時の現在進行形とか動名詞といったところになります。パートナーはもちろん、ダンスのパートナーとか広く一般に相手、同伴者などの意味の名詞ですが、ではそれが動詞となるとどういう意味になるのでしょうか？動詞と名詞が同じ形の単語の多くでは、名詞の日本語に“する”という一種の接尾辞をつければ、

動詞の意味になります。例えば **study** であれば、勉強⇒勉強する にすれば動詞の意味になるので、やはり、“パートナーする”という意味になります。『パートナーになる、相手になる』という意味でしょうか？そうです。一般的には、例えばテニスで勝負する相手になるとか、仕事で相棒になる、などの意味です。しかし、この“ダンス英単語”としての意味は、どちらかというと、前述の意味を更に発展させて、ダンス分野で、無理やりこじつけて作った単語の様な雰囲気もありますが、『(ダンスをするペアが) お互いのリード&フォローを上手に用いて、カップルとして良い状態を作る、カップルとして良い踊りをする』という意味なのです。もっと判りやすく言えば、海外の競技会などでは、審査員がタブレット等で採点する時に、技術点や振り付け、音楽性などの項目がある(ちょうどメダルテストの“採点票”を思い浮かべれば判りやすいです)のですが、その中に、このパートナーリングの項目があつて、例えば、男性のリードが強過ぎて、女性が振り回されている時などは、このパートナーリングの点が悪くなったりする訳です。多少大雑把に言えば、私達のダンスのメダルテストの採点項目にある、リード&フォローの様なものだと思えば良いでしょう。(ケーブルTVのWDSFの競技会番組の中で、審査員の採点の項目の一つとして登場します。)

③ ウィップラッシュ **whiplash** [(h)wɪplæʃ] (フ) **ウ**イプリヤッシュ

時々“ウィップ・ラッシュ”という風に2語で書かれている表記を見ますが、これは誤りで、

1語です。ウィップラッシュは、『鞭^{むち}のひと振り、鞭^{むち}打ち』という意味です。つまり、動作がシュパツとか、一瞬で、ヒュンという風の唸りが聴こえて来る様なフィガーに用いられる



訳ですが、と言っても、そういう瞬間的な動き全てのフィガーをいう訳ではありません。判りやすく言うと、タンゴのプロムナード・リンクの第2歩～3歩の部分、すなわち、男女がPPから、女性が左回転でクローズド・ポジションに戻る部分を、スウィング・ダンスの様に、そしてピクチャー・ポーズの様に、オーバーにスウェイをつけて、シュパッと余韻まで漂う様に踊る足型が、ウィップラッシュです。新ゴールド級では、スローフォックストロットの17番に使われていますし、過去のテストルーティンに於いても、ワルツやスローフォックストロットに登場しています。ただし、現在の使い方は、前述の様に、瞬間的に、ヒュンと踊るのではなくて、むしろ逆に、斜めのポーズをゆっくり動いて楽しむ様な感じで、スロー調に踊る方が主流です。もちろんピクチャー・ポーズです。



④ プレゼンテーション presentation [pri:zenteiʃən] プリーゼン^テイション

これは、会社で、新製品の説明などの際に言われる“プレゼン”という単語のことです。実際、『プレゼン』という単語と、ダンスなどで使うこの『プレゼンテーション』が同一の単語と聞いて、初めてその事を知った先生も多いのではないのでしょうか？このエッセイの最後の一覧表にしておきましたが、この様に、別々の単語だと思っていたのに、実は同一の単語だったという英単語は実に多いのです。異なる分野で、日本人の耳が聞き取って作られたカタカナ表記が、微妙に異なるからです。（例えば表中の“フィガー”と“フィギュア”）さて、このプレゼンテーションは、もちろん、恋人や子供に送ったりする“プレゼント”と深い関係にある単語ですが、全部解説すると莫大な量になるので、あまり気乗りしません（夏バテ！？）が、少しだけ言いますと、前記②の解説中の単語同様に、プレゼントという単語は、名詞として『プレゼント、贈り物』、と同時に同形で、動詞として『プレゼントする、贈り物をする』という

意味になります。（但し、^{めいぜんどうご}名前動後と言って、動詞の時は、プリ^ゼント[prizént]という様に、“ゼ”を強く、高く発音しますので、日本語としてのカタカナ英語ではあまり用いられません。名詞の時は、普通にいうプレゼント[préznt]です。この様に、全く同じスペルで、名詞としても動詞としても使うけれども、発音の仕方が多少異なり、アクセント＝強勢の位置が、名詞として使う時は前、動詞として使う時には後ろに移動する単語の事を、英文法の用語で、^{めいぜんどうご}『名前動後』と言います。）それで、その際の動詞の **present** を名詞化した物（名詞形）



が、**presentation**（プレゼンテーション）なのです。丁度、**hesitate**⇒**hesitation** と全く同じ変化です。なので、意味は『プレゼントする事、贈呈、贈与』更には拡大発展して『（何かを）送る事、提示する事、表わす事』などの意味になり、これも前述した様に、どちらかという、ダンス的な専門用語として、多少、更に意味拡大して、『（ダンスに於いて）動きや表情で、強く訴える物、表現する物。（ダンスで表現する）情感』とでもいう意味になります。要するに、例えば勝敗がかかっている競技会の様な現場で、ただ単にボーッと、黙々と必死に踊るのではなくて、見た人が、何か訴える物を感じ取れるように“提示（呈示）”しないといけないという事です。これに関して、私の経験を書きますと、以前、ロンドンで、

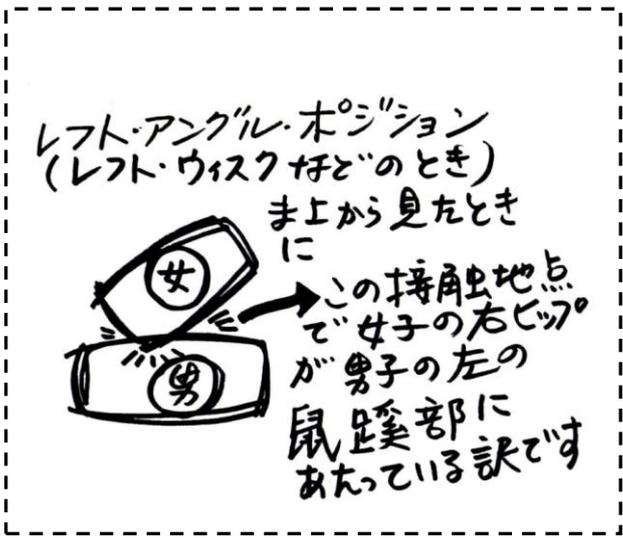
尊敬するラテンの偉大なコーチである、サミー・ストップフォード先生（ドニー・バーンズ&ゲイナー・フェアウェザー組のちょっと前に活躍してチャンピオンになっている英国のラテン・ダンサーで、筆者はその宇宙的にサイケデリックなコリオグラフィー＝振り付けに心酔して、大好きです。実際、非常な天才ダンサーです。）に習っている時に、彼が言いました。『君はダンスを僕に見せている訳だが、もしそのダンスが自動車という商品で、君は自動車のセールスマンだとしたら、一生懸命にその利点やお買い得なポイントを必死に説明するだろうね。だから僕に、君の自動車（ダンス）を必死にアピールして、セールスして（つまりプレゼンして、踊って）ごらん！』（もちろん英語でおっしゃったんですよ。）つまり、単に必死に踊るとかではなくて、自分のダンスをしっかりと“プレゼン”しなさいよという意味ですわなも。なので、特に競技選手の皆様やデモンストレーションをなさる生徒さんなど、見せる（魅せる）ダンスをする人にとっては、この単語は超重要ですから、知っというてちょ～よ！

⑤ レフト・アングル・ポジション **Left Angle Position** （発音記号は省略）

これは、**WDSF** の新教本の中に掲載されている、例えば、ヒンジというピクチャー・ポーズを踊った時の、男女のポジション名です。新ゴールド級タンゴのレフト・ウィスクの時、この名前を用いて講習がありました（**当会報 29 ページ上から 19 行目参照**）。聴いたことがあるでしょうか？ もちろん、協会発行の『ダンス英単語辞典&協会の歴史』には既に掲載されております。何せ、**WDSF** 関連の技術用語も、ほぼ 100%網羅してピックアップされていますので、とても重宝します。**WDSF** のテキストによりますと、レフト・アングル・ポジション

は『女子のヒップのインサイド・エッジが男子の鼠蹊部の左側に位置する』組み方と書かれています。 “ヒンジ” というピクチャー・ポーズなどがそうだと例示されています。（なので、精密にいうと、レフト・ウィスクの時に、レフト・アングル・ポジションになるかどうかは、また、**WDSF** の教本勉強会にて議論ませふ！）多少判りにくいのですが、まず、女性のヒップのインサイド・エッジという表現がどこを示すのか正確に把握しづらいですが（もちろん大元は英語）。これは単純に、女性の右ヒップのやや内側と思えば良いし、もっと簡単に女性の右ヒップ（の下の^{もも}腿）^{そけいぶ} 辺りが、これまた判りにくい単語ですが、男性の鼠蹊部の左側に接触すれば^{そけいぶ} 良いのです。鼠蹊部とは **Wikipedia** によれば、『左右の大腿部の付け根にある溝の内側にある下腹部の三角形の部分。解剖学的には恥骨の左右の外側・股関節の前方部にあたる。股間を構成する主要部分の1つである。この部分の下方には鼠蹊靭帯（^{そけいじんたい} 兎径靭帯）があり、その下を下肢へと向かう動脈・静脈・リンパ管・神経などが走っている。』との事です。

要するに^{もも}腿の付け根（股近辺）あたりの事だと思えば良いでしょう。ちなみにライト・アングル・ポジションもあり、これは、セイム・フット・ランジの時の組み位置です。アングルは角度という意味で、これは、クローズド・ポジションの様に平坦に、平行にべったりくっつくのではなくて、男女の接触部分が、ある程度立体的に、“角度”を作って組むという意味で用いられている訳で、レフト・アングル・ポジションとは、言ってみれば、『左側で、角度を作って組む位置（組み方）』といえましょう。こういう新しい用語も是非とも、簡単に把握しておきましょう。



燕のジョー氏が、このエッセイに掲載すべきダンス関連英単語の選択や、解説の補助などのお手伝いをして下さる人を探しています。PDI 会員やそのお知り合い、友人、家族など誰でも構いませんので、心当たりのある人は、総務・内藤(☎090-1726-9996)までお知らせください。何卒宜しくお願い申し上げます。

④の、『プレゼン』と『プレゼンテーション』の様に、別々の単語だと勘違いしている人が多い、そういう単語の一覧表（実は、「単語その1」と「単語その2」は同一の単語なのです）

単語その1	意味、由来、 使い方など	単語その2	意味、由来、用い 方など	大元の英単語の 綴りなどと解説
ワイシャツ	衣服のワイシ シャツ	ホワイト シャツ	white shirt もちろん『白いシャ ツ』の意味ですわな も。	ホワイト・シャツを、日 常英語的に、速く発音す ると、ワイシャツと聞こ えるから。
フィガー	もちろん、ダン スの足型の事 ですね。	フィギュア	フィギュア・スケート とか、リカちゃん人形 のフィギュアとかい う場合に用いる単語	両方とも figure 意味として は『形、図』
ステッキ	シャーロック・ホ ームズの時代の 英国の紳士とい えば、シルクハッ トに、ステッキ (杖=つえ)	スティック	ホッケー・スティック、 コーヒー・スティック などの場合のスティ ック。『棒』という意味 ですわなも。	両方とも stick 正直自分もステッキ が、スティックだとは 全然知りませんでした。 不覚……(>_<)……
チッキ	江戸川乱歩や久 生十蘭（ひさお・ じゅうらん）の様 な古い小説に出 てくる単語で、列 車などで荷物を 送る、書留便の事 を“チッキで送 る”などと言いま す。	チェック	ダンスの動作で、コン トラ・チェック、チェ ックド・フォワード・ウ ークなどと用います。 ダンスで用いるチェ ックの意味は、大体『止め る、静止する』です。	両方とも check チッキなんて言っても、 今の若い先生は聞いた事 ないでしょうね。また久 生十蘭（ひさお・じゅう らん）は推理小説作家の先 駆けのような存在の、古 い時代の小説家。
ハヤシ ライス	料理名 『ハヤシもある でよお』などの宣 伝文句が懐かし い。	ハッシュド ビーフ ウィズ ライス	薄切り牛肉とタマネギ をドミグラスソースで 煮たものを米飯の上 にかけた料理。	ワイシャツ同様、『ハッ シュド(hashed)』が、ネ イティブ的な発音をさ れた場合に、『ハヤシ』 と聞こえる事から、
ジルバ	英語で Jilba な んて書いちゃ だめですよ。	ジターバグ	Jitterbug アメリカのスウィ ングダンスの1種。	上記同様、ジターバグ ⇒ジタバッ⇒ジラバッ ⇒ジルバ と聞こえる から
Chevrolet (chev rolet ?)	フランス語。自 動車のメーカ ー名(会社名)。 豊田とか、ベン ツの様な名称。	シボレー	街中でこの自動車名の ロゴを見かけても、シ ボレーだとは思わな い。シボレーとは別の 単語と思っている人は 多いですわなも。(僕も そうでした)	[[svrə'lei] が発音記号 で、[シェヴラ ^レ イ]と読め ます。これを早く発音す ると、上記同様、シボレーと 聞こえるから。 Renault もレナウルトではなくて、 「ルノー」です。両方とも 仏語
ミルク セーキ	今では喫茶店 でもあまり置 いてないのか もしれません が…	ミルク シェイク	milk shake セーキ がシェイクだったなん て、今初めて知った人が 多い事でしょう!! シェイクハンド・ホール ドのシェイクです。	『シェイク』が英語の速 い発音で『セーキ』に聞こ えたのでしょね。

印刷の際にお願いしたい留意点 何卒宜しくお願いいたします。

英文字に関しては、いつも同様に、Times New Roman という書式ですが、これはどのワープロにも入っています。ところが英単語のうしろの[]で囲まれた中の、“発音記号”
イングリッシュ フォネティック シンボル
に関しては English Phonetic Symbol KK(「英語発音記号の書体」という意味です。)(もしくは、今回は別のコンピュータを使用しましたので、今回のこの原稿に限って言えば、“Aglaia Phonetic Symbol” という、発音記号表示書体を使用しております。)という書体がインストールされていないと、印刷できません。一応この原稿は、USB メモリー、印刷両方でお渡ししておりますが、USB メモリーの電子データを開いた場合、上記の English Phonetic Symbol KK(もしくは Aglaia Phonetic Symbol)がインストールされていないと、非常に変な記号になり、『何じゃこりや??』ってな事になりますから、要注意です。その場合は、この印刷原稿を見て、植字されるなり、上記の書体をインストールされるなりして下さい。多分と言うか、English Phonetic Symbol KK の書体も、お持ちだとは存じます。思うに、前回も非常に正確に印刷して下さったので、何も問題ないと思いますが、一応念のために説明させて頂きました。

また、この原稿は、かなり余白も削って狭くしてありますので、勿論、全体を更に、(前回同様)“縮小”して、何とかやりくりして下さい。昨日、4 ページに縮小できないかなどと、大変な無理を申し上げまして、まことに申し訳ありませんでした。深く反省しております。懲りずに、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

では何卒宜しくお願いいたします。